

2024年12月22日クリスマス礼拝 ヨハネ1章6節ー13節 説教「神の子どもとなる特権」

今週はクリスマスを迎え、今日はクリスマス礼拝となりました。救い主イエス・キリストの誕生を祝い、キリストを礼拝しましょう。今日は先週の続きのヨハネ1:6-13から「神の子どもとなる特権」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 証しのために来た人 6-8

6-8節はバプテスマのヨハネについての記述です。「6 神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。」バプテスマのヨハネは旧約聖書の預言どおり、救い主の道備えをするために神から遣わされました。彼が神から遣わされた目的は何だったのでしょうか。7-8「7 この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。8 彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。」7節8節には3回「証し」という言葉が出て来ます。バプテスマのヨハネは「証し」のために来ました。何を証しするために来たかという「光について証しするため」でした。

光とは5節にある「闇の中に輝く、闇に打ち勝つ光」のことです。そして光とは救い主イエスのことです。また闇とは人間を支配する罪と死の闇です。すべての人は神の前に罪を犯し、罪の結果すべての人は死ぬ者となりました。その死とはまず霊的死です。霊的死とは造り主なる神との交わりを持つことができなくなることです。生まれながらのすべての人は肉体的に生きていても、まことの神から離れ、神との交わりを持つことができず、霊的に死んでいるのです。次に肉体的死です。すべての人は必ず肉体的に死ぬ者となりました。そして永遠の死です。死後、自分の罪に対する神のさばきを受け、永遠の滅びに至るのです。

しかしイエスは、罪と死の闇に打ち勝つ光とされました。十字架ですべての人の身代わりに神のさばきを受けて死なれ、罪からの救いを成し遂げられました。さらに3日目に死からよみがえり、死に打ち勝つ救いを成し遂げられました。その結果、イエスを救い主と信じる者に、神は罪の赦しと永遠のいのちを与えてくださいます。私たちがイエスを信じて永遠のいのちを受けるとき、神との交わりが回復し、霊的に生きる者とされ、神と共に歩む者になります。さらに肉体的死の瞬間に、たましいは神がおられる天に引き上げられます。そしてイエスが再臨される時には、朽ちたからだは朽ちない栄光のからだによみがえり、永遠の天の御国で神と共に歩むことができるのです。

バプテスマのヨハネは、闇に打ち勝つ光であるイエスを証しするために来ました。さらに彼の証しによって、すべての人がイエスを救い主と信じるために来たのです。彼は光ではありませんでした。ただ光なる救い主イエスについて証しするために来たのです。バプテスマのヨハネは、イエスが神の子キリストであることを証しした最初の人です。そして、ペンテコステによって聖霊がすべてのクリスチャンに来られる時代が来ると、すべてのクリスチャンがイエスの証し人となりました。

私たちは今年、教会40周年を迎えるにあたり、救いの証し集を作るために準備しています。私たちはどのようにしてイエスと出会い、イエスの救いに与ったかを証しすることによって、イエスを証しします。バプテスマのヨハネがイエスを証しするためにこの世に遣わされたように、私たちもイエスを証しするために神から遣わされています。そのことを覚え、イエスの証し人として遣わされましょう。

2. この方を受け入れなかった人々 9-11

9-11はイエスがこの世に来られた時の人々の反応です。「9 すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。」イエスは、すべての人を照らす光です。また私たちの心をこの世の楽しみによって一時的に明るくする光ではありません。罪と死の闇に打ち勝ち、永遠のいのちの救いを与えるまことの光です。その光なる救い主イエスがこの世に来られることが、旧約聖書にずっと預言されていました。そして神の 때가満ちて、イエスが来られる時がやって来しました。

「10 この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。」

1:3に「すべてのものは、この方によって造られた」とあるように、世界は子なる神イエスによって造られました。けれども、だれも自分たちの造り主である神のひとり子イエスを知る人はいませんでした。罪人の心は罪の闇に覆われていたので、わからなかったのです。

「11 この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。」新約聖書原典では11節は「この方はご自分のところに来られた」でまず区切られ、そのあとに「しかし」とつながっています。「この方はご自分のところに来られた。」これは救い主の誕生です。神が人となってこの世に来られたのです。14節では「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」とあります。「この方はご自分のところに来られた。しかし、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。」その結果、人々はイエスを十字架に付けて殺してしまいました。けれどもイエスの死によって、神の救いの計画が成就しました。イエスはご自分の死によって、すべての人の罪を贖い、3日目によみがえって、死に打ち勝つ救いを成し遂げられました。

3. この方を受け入れた人々 12-13

12節はイエスを救い主と信じる者に与えられるすばらしい神の救いの約束です。「12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」イエスを受け入れなかった人々は、イエスを十字架に付けて殺しました。けれどもそれから約50日後のペンテコステの日のことです。その日、ペテロの説教を聞いた3000人の人たちが、自分の罪を示されて、罪を悔い改め、イエスを救い主と信じてバプテスマを受けました。さらにその後も多くの人々がイエスを受け入れ、やがて異邦人にも伝道がなされ、多くの人々がイエスを信じて救われ、教会は成長していきました。そして今日もイエスを救い主と信じる人々が世界中で多く起こされています。

この方を受け入れ、その名を信じるとは、イエスを心に受け入れ、イエスを救い主と信じることです。イエスを自分の救い主と信じ、心にイエスを受け入れる人は、すばらしい救いをいただきます。その救いの一つが神の子どもとなる特権です。イエスを信じて、永遠のいのちを受けると、人は神の子どもとして霊的に新しく生まれます。このことを新生と言います。神の子どもの新生児として、霊的に生まれるのです。そして神は私たちの天の父となってくださいます。

天の父は、神の子どもである私たちを愛し、いつも共にいて、私たちを守り、助け、養い、育ててくださいます。また私たちを正しい道へと導き、私たちを祝福し、訓練して、神の栄光のために用いて下さいます。さらに子なる神イエスとの共同相続人となって、永遠の御国を受け継ぐのです。これは神の子どもにだけ与えられた特権です。

「13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」神の子どもとして新生することは、血縁によりません。クリスチャンホームの子どもが自動的に神の子どもとなるのではありません。また人間の努力によるのでもありません。良い行いによって神の子どもとなるのではありません。また人の意志によって神の子どもとなるのでもありません。確かにイエスを信じることは、私たちの意志によりますが、私たちの意志によって神の子どもとして新生するのではありません。神が私たちの信仰を受け入れてくださり、その結果、神が私たちを神の子どもとして霊的に生まれさせてくださるのです。人間にはできないことを、神はイエスを信じる者にしてくださるのです。

クリスマスは、罪と死の闇の中にいる私たちを救うために、神のひとり子イエスが人間の赤ちゃんとなって生まれてくださったことを覚える日です。「この方はご自分のところに来られた。」2000年前に、イエスは私たちの住むこの世に来てくださいました。そして今も天において私たちの救い主として生きておられます。私たちはイエスを受け入れない者ではなく、イエスを受け入れる者となりましょう。そして罪と死に打ち勝つ救いをいただき、神の子どもとしての特権に与りましょう。そして救い主の誕生を心から喜び、闇に打ち勝つまことの光であるイエスを証しする者となりましょう。